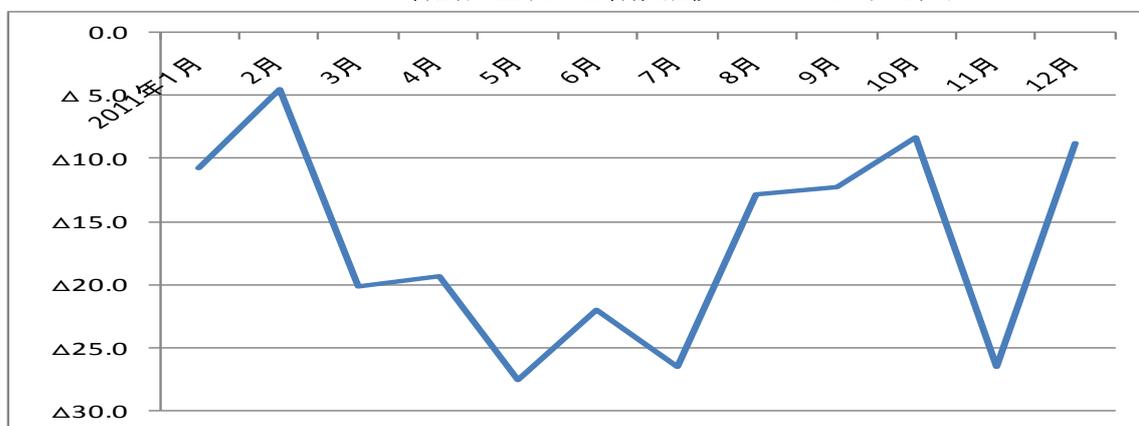


道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2012年2月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

さて、2月15日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、前月に引き続き道北地域の景気の基調判断を据え置き、「横這い圏内で推移している」としました。最終需要面をみると、設備投資が低水準で推移しており、公共投資は月々の振れを伴いながらも、均してみれば横這いの状態で推移しています。住宅投資は10～12月前年同期比で+0.6%と、緩やかに持ち直しています。最大の需要項目である個人消費は、一部で持ち直しの動きが続いていますが、そのペースは鈍化しています。すなわち、自動車販売はエコカーを中心に持ち直しています（2011年12月は、エコカー補助終了前の駆け込み需要の反動がみられた2010年12月比大幅な増加<+22.6%>となったのはもとより、エコカー補助の効果から高い伸びを示した2009年12月比でも微減<△3.8%>）。更年後も、新車投入効果から好調を持続しています。一方、百貨店・スーパー等大型店の売上高は、家電製品（薄型TV等）の減少が続いていることもあって当月も減少するなど、弱目の動きが続いています。こうした中で、観光が持ち直しているものの、そのペースは、リバウンド局面にあった昨年夏場から秋にかけてと比較すると、鈍化しています。一例として、道北地方の代表的な観光地である層雲峡温泉の宿泊客数前年比推移のグラフを掲げました。下記グラフをみると、5月をボトムに前年比減少幅は着実に縮小してきましたが、11月は減少幅が拡大し、12月も10月並みの減少となっています。ただし、層雲峡の1月は、春節期間中アジア方面からの客で賑わった、との声が聞かれていますし、12月のホテル・旅館の宿泊客数（ウトロ温泉地区、網走・温根湯地区、層雲峡・白金地区、利尻島地区）は、統計開始（2011年5月）以来初めて増加（+4.6%）し、1月も春節のタイミングのずれ（今年：1月、昨年：2月）もあって増加（+12.6%）しました。また、12月の空港（旭川、稚内、女満別、紋別）利用客数も、旭川空港における成田便の就航や国際チャーター便の利用客増加の効果もあって、前年比+4.1%と、15か月振りに前年を上回りました。このようにペースは鈍化しているものの、全体として引続き「持ち直し」の方向にあると判断しています。

＜層雲峡温泉入込客数推移＞ 前年比、%



この間、12月（合板は11月）の生産は、製材、合板、電子部品関連が増加した一方、紙・パルプは減少しました。電子部品関連は新製品の作り込みが終われば減少に転じますので、単月の振れはあるものの、横這い圏内の動きです。雇用情勢は、新規求人、有効求人倍率が前年を上回るなど、改善の動きがみられており、厳しさの程度は幾分和らいでいます。

このように、個別にみると強弱材料が交錯していますが、全体としては道北地域の景気は横這い圏内で推移しています。

個別の動きについては、[金融経済概況](#)をご覧ください。

旭川冬まつりが閉幕しました。今年は悪天候と会期短縮（6日→5日）の影響もあって、残念ながら観客数は前年に比較して約3割の減少となりました（68.1万人、△28.6%）。しかし、イベント自体は、オープニング花火、ギネス級の大雪像とこれを利用した長さ100メートルのすべり台、道北の一流の食を堪能できる屋台村、買物公園での氷彫刻世界大会等、大変質が高く、充実したものだったと思います。ぜひ一人でも多くの人に感動を味わっていただきたいものだと思います。このHPにも冬まつりの写真を掲載しましたので、ご覧ください。

2012年2月15日
荒木 光二郎